

地域医療連携だより 2022年1月号 第26号



高松市立みんなの病院院内保育所どんぐり 運動会

Topics

- 脳卒中・神経センター紹介
- 脳神経外科 オンライン診療を始めました
- 第11回高松市立病院学会を開催しました
- 地域医療・患者支援センターからのご案内
 - ・ 第73回地域医療連携セミナー開催のご案内
 - ・ 第74回地域医療連携セミナー開催のご案内

脳卒中・神経センター

当院では、2017年4月より脳卒中・神経センターを開設しており、7月より脳卒中ホットラインの運用を開始し、現在1次脳卒中センターとして脳卒中急性期の患者さんの治療をおこなっています。脳神経外科医3名、神経内科医1名で構成され、24時間、脳卒中患者さんの受け入れをしています。とくに脳梗塞については、発症4.5時間以内のtPA静注療法に加え、4.5時間をこえた脳主幹動脈閉塞症例に対して、積極的に経皮的血栓回収療法もおこなっています。

2018年～2021年までに救急入院された脳卒中患者さんはのべ、639名おられ、その種類と推移は図1のようでした。

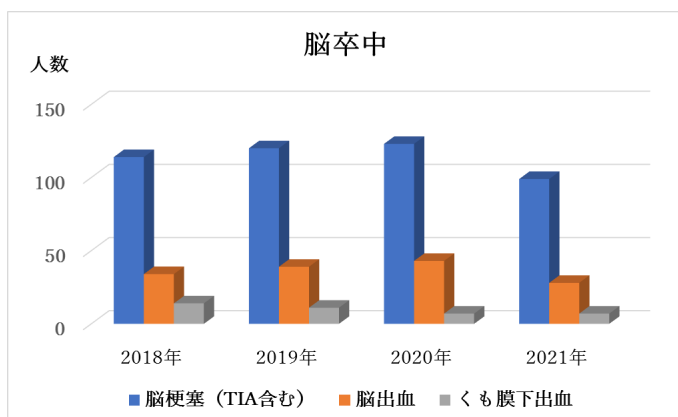


図1 脳卒中の種類と推移

脳梗塞が多く脳卒中全体の約7割をしめ、脳出血の約3倍多くみられています。くも膜下出血は、脳卒中全体の6%程度でした。

また脳梗塞急性期のtPA静注療法、経皮的血栓回収療法の推移は図2のとおりでした。

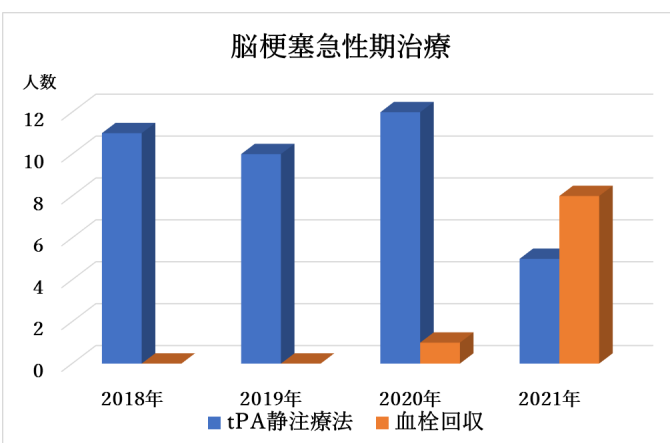


図2 脳梗塞急性期治療

当院では、2020年よりtPA静注療法に加え血栓回収をおこなう頻度が増加傾向にあります。これは、発症から4.5時間をすぎた患者さんでも血栓を早期に除去することで脳梗塞の拡大を防ぎ予後をよくする可能性があることが示されているためです。当センターではこれからも血栓回収療法をくわえ脳梗塞の急性期治療をすすめていきます。

また脳出血に対しては、神経内視鏡を用いた低侵襲な治療、くも膜下出血に対しては、従来の開頭クリッピング術に加えコイル塞栓術などの血管内治療もおこなっています。

脳卒中は世界的に注目されている疾患で、年間全世界で1700万人、我が国で約30万人が発症されています。毎年10月29日は世界脳卒中デーとされており、香川県でも2021年にシンボルタワーがブルーライトアップされました。脳卒中の治療は、‘Time Is Brain’ といわれるように時間との勝負です。早期に発見し早期の治療が必要です。こちらのリーフレットののような症状が診られましたら、早急に脳卒中ホットラインまでご連絡ください。

(文責 白川 典仁)



カンファレンス風景



脳卒中ホットライン

TEL **080-4188-5449**

(平日 8:30~17:15) 時間外は当院救急当直まで

各医療機関医師から当院担当医師直通の相談窓口です。緊急症例、診察のご相談等お気軽にお電話ください。



脳卒中・神経センター

(左から 山口医師、白川医師、庄野医師、浦井医師)

脳神経外科 オンライン診療（遠隔連携診療）を始めました

「てんかん」と聞くと、手足がけいれんする状態を思い浮かべる人が多いと思いますが、一点を凝視して反応がない、口を無意識にペチャクチャ動かすなどのけいれんではない発作の患者さんも多く、特に高齢者では認知症と間違われることもあります。

当院脳神経外科では、9月から香川県初の試みとして、てんかんの疑いがある患者さんを対象に、徳島大学脳神経外科のてんかん専門医と連携し、オンライン診療（遠隔連携診療）を始めました。

オンライン診療は、まず当院で問診や診察を行い、頭部MRIや脳波検査などを受けていただきます。その結果を徳島大学のてんかん専門医に共有し、その後当院の診察室で医師が同席のもと、オンラインでてんかん専門医の診療を受けていただきます。

当院では月に一回てんかん専門医が対面で診療を行っていますが、患者さんが徐々に増加しているため、診療を受けるまでの期間が長くなっています。オンライン診療は、早く専門医の診療を受けることができる、長距離移動の負担がなく県外の専門医の診療を受けることができるなどのメリットがあります。

なお、オンライン診療を希望する場合は、当院を受診する必要がありますので、脳神経外科の受診予約をお願いいたします。



第11回高松市立病院学会を開催しました

高松市立病院学会は、高松市立病院（高松市立みんなの病院、塩江分院）間の交流や病院内各部門間の理解を深めることを目的に平成24年から年1回開催しております。安全かつ高度な医療を提供するため、市立病院は日々努力を続けております。医療の向上を目指すためには、診断や治療に貢献する研究、検査技術の維持・向上、教育などに対する積極的な取り組みが重要です。今年は10月22日（土）にみんなのホールにて第11回高松市立病院学会を開催いたしました。

今年の一般演題は9演題が発表されました。看護局、臨床工学科、検査技術科、放射線技術科、リハビリテーション科からの発表で、どの発表も興味を惹かれる素晴らしい演題でした。本年の最優秀演題に選ばれたのは、放線技術科 宮本将宏技師が発表した「MRI検査でのT2強調画像における脂肪抑制法

の検討」でした。特別講演は、城西大学経済学部伊関友伸教授による「アフターコロナの時代の自治体病院経営」でした。職員に勇気を与え、示唆に富む素晴らしい講演でした。

お忙しい中、高松市議会議員の皆様方にもご参加いただきありがとうございました。

来年度も実りある市立病院学会を目指して開催する予定です。

（文責 林 義典）





地域医療・患者支援センターからのご案内



第73回 地域医療連携セミナーのご案内

演題 「これだけは知っておきたいCOVID-19とワクチン」

呼吸器内科 副院長 岸本 伸人

■日本医師会生涯教育制度0.5単位カリキュラムコード
【8.感染対策】を取得いただけます。(申請中)

申込み締切り
11/11(金)

先着
90名

日時 2022年11月16日(水)19:00～(1時間の予定)

第73回 地域医療連携セミナー

日時 令和4年11月16日(水) 19時～

演題 「これだけは知っておきたい
COVID-19とワクチン」

講師 呼吸器内科

副院長 岸本 伸人

先着

90名

お申込みはこちらから→

お申込み人数が定員に達した場合、
受付を締め切らせていただきます。
申し訳ございませんが、ご了承ください。



第74回 地域医療連携セミナー

日時 令和4年12月21日(水) 19時～

演題 「デュピルマブを使用した
鼻茸の2症例」

講師 耳鼻咽喉科

診療部長 近藤 昭男



第74回 地域医療連携セミナーのご案内

演題 「デュピルマブを使用した鼻茸の2症例」

耳鼻咽喉科 診療部長 近藤 昭男

■日本医師会生涯教育制度0.5単位カリキュラムコード
【39.鼻病・鼻病】を取得いただけます。(申請中)

申込み締切り
12月16日(金)

日時 2022年12月21日(水)19:00～(1時間の予定)

お申込みはこちらから→



FAX予約を
お願いします



患者さんをご紹介いただく際に、地域医療・患者支援センターへ事前にFAX予約をお願いいたします。

受付時間	平日(月～金) 8時30分～18時00分
	土曜日 9時30分～13時00分 ※土曜日はFAX予約受付のみ
電話	(087)813-7171(代表) / (087)813-6699(紹介予約専用)
FAX	(087)813-6799(直通) 0120-834-224(フリーダイヤル 060)
	※フリーダイヤルは県内固定電話のみ対応しております。